



「令和跨線橋」の完成イメージ図。左側が北で、東西を走るJR山陽本線をまたいでいる



人を笑顔にする仕事

構造物のスケール実感

授業では、実際に工事が行われている様子を間近で見ていると、3月末の供用開始に向けて大詰めが行われている「主要地方道網干たつの線松原跨線橋道路改良工事（第3工区）」の現場を見学した。

事業概要の説明に当たった兵庫龍野土木事務所道路課の松本元貴さんはたつの市職員で、2年前から同事務所に出向している。現場に向かう途中

兵庫県
龍野土木事務所
松本元貴さん



松原跨線橋道路改良工事の現場見学

に通過した、龍野新大橋では橋脚の補強工事が行われていた。



3月末の供用開始に向けて大詰めが行われている「令和跨線橋」の現場を見学＝いずれも、たつの市揖保町東用

橋を管理するたつの市による工事で、松本さん自身も以前に携わっていたといい「これから新しく造るだけでなく、今あるものを直しながらく長く使っていくことも大事で、こうした補強・補修工事が増えている」と述べた。

県は、渋滞の緩和や地域にぎわい向上を目的に、中国縦貫自動車道山崎インターチェンジから瀬戸内沿岸部を通る国道250号に至る全長27キロの「揖龍南北幹線道路」の整備を進めている。そのうち工事が残っているのが、兵庫県とたつの市で整備を進める主要地方道網干たつの線松原工区（全長1.4キロ）。

株式会社前田組
工事部部長
堀田真人さん



パワーショベル試乗、転圧機体験も

今回見学したのは同工区中の、JR山陽線をまたぐ松原跨線橋北側の道路改良部分だ。正式名称が「令和跨線橋」と決まり、現在、橋名板を揖保小学校児童たちのデザインをもとに工場製作中だという。

現場に着いた生徒たちは、完成前の跨線橋を歩き、構造物の大きさを実感した。橋の長さは全長301メートルで、5〜11本の桁を組み合わせて工事が行われていることや、線路の真上の部分はJR西日本が工事を担当し、電車が走らない夜間に工事が行われていることなどを説明。次に道路改良工事を担当している西播磨地域を基盤とする株式会社前田組（太子町）



パワーショベルに試乗し乗り心地を体験

の工事部部長、堀田真人さんから工事の現状について説明を受けた。

「地域の方々の日常生活や周辺の工場稼働に支障が生じないように、騒音・振動等に細心の注意を払って工事を進めている」と留意点を語った。また、「働き方改革の推進により、この現場でも週休2日に取り組んでいる。建設業において、若手人材の確保が困難な時代であるが、当社では今春に新卒者の入社が決まっている。みなさんには、ICTなどの先端技術に対応できる技術者を目指して建設業界を盛り上げてほしい」と期待の言葉をかけた。

その後、パワーショベルの試乗体験が行われ、真っ先に手の挙げた生徒3人が運転席に乗り込んだ。また、砕石を平たんにするために固めるプレートコンパクター（転圧機）の操作も3人が体験。その一人、山垣紗耶さんは「思うようにまっすぐ進まなかったけれど私でも操作できるんだとわかった」と感想を述べた。